

滞日期における蕭友梅の活動とその背景の研究

——新たな蕭友梅像の構築に向けて——

卓詩穎(東京藝術大学大学院)

本研究は、筆者の修士論文において新たに考証した蕭友梅の滞日経歴を基礎とし、継続的な資料調査と史料収集を通じて関連事象を精査し、その時代的・社会的背景を踏まえて蕭友梅の滞日経験が持つ歴史的意味を再検討することを目的とするものである。既知の滞日経歴を再文脈化し、その成果に基づいて蕭友梅像を俯瞰的に捉え直すことで、蕭友梅研究における新たな可能性を提示することを目指す。

蕭友梅(1884～1940)は中国近代音楽専門教育の確立に大きく寄与した先駆者とされるが、その評価は一貫しておらず、顕彰的評価と批判的評価が併存してきた。本研究は、この揺れ動く評価の背景を踏まえつつ、蕭の出身地である香川県における西洋文化との早期接触や留学が盛んな地域性といった文化的背景を導入し、従来十分に検討されてこなかったうえ、その史実自体も多くが曖昧であった滞日期に、新たな視角から光を当てるものである。

修士研究において新たに明らかとなった陸軍士官学校卒業という経歴を踏まえ、本研究は蕭友梅を単なる「音楽人」ではなく、明治期日本に留学した多面的な中国人留学生として位置づける。この視角に基づき資料調査と考証を進めた結果、蕭友梅の滞日経験に関する多くの詳細が明らかとなり、滞日期が彼の思想形成および後年の音楽教育活動を理解するうえで重要な意味を持つことが示唆された。

本研究は、蕭友梅の滞日経歴を再構築することにより、従来の蕭友梅像を再検討し、中国近代音楽史研究に新たな視座を提供するものである。総じて、本研究は滞日経歴の多面的再構築と史実に基づく分析を通じて、彼の学習態度や学問観、さらには音楽を学問として捉える姿勢を明らかにした。これらの成果を先行研究における蕭友梅像や香山地域の文化的背景と接続し、より広い歴史的文脈の中で再評価することが今後の課題である。